

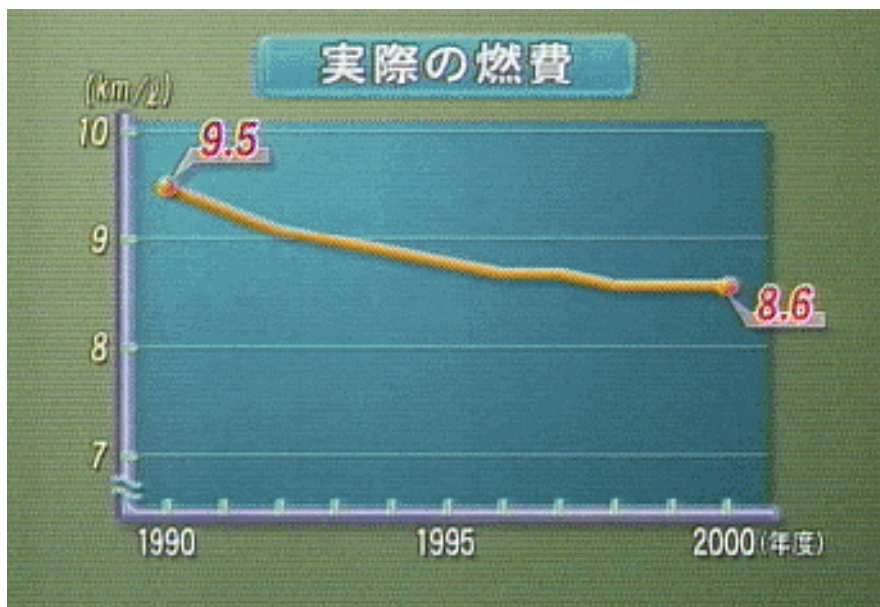
添付書類（１） 全国の自家用自動車の実際の燃費の推移

本資料は、国土交通省が毎年発行している「交通エネルギー要覧」のデータに基くものである。データは国立環境研究所がまとめたものとしている。グラフは、そのデータをしめしたものである。これは2002年6月12日NHK放送の番組「あなたにもできる温暖化対策(2)減らせ愛車の二酸化炭素」で放映されたものである。

自動車の環境性能は年々向上していると一般には考えられているが、それはあくまで同一モデルの自動車の性能が向上しているに過ぎず、実際には消費者が環境性能の悪い車を選択するようになっている結果として、全体としては逆に自動車の環境性能は悪化の一途をたどっていることを示している。

すなわち、自動車税制のグリーン化においては、車種ごとの環境性能向上のみを考慮した現在の考え方は間違いであり、消費者に環境性能の良い車種を選択させること、すなわち、より燃費の良い自動車を購入させる方向に導く税制が必要であることが明らかである。

「古い車である」というだけの理由で、燃費の良い車にも重課を課し、一方、「新しい車であり以前に比べて改善した」というだけの理由で燃費の悪い車を「エコカー」として税軽減の対象とする現在の税制は、全くの本末転倒であり、環境負荷を考慮した税制とは言えないことを容易に知ることのできるデータである。



図：全国の自家用自動車の実際の燃費の推移